

お手伝いのはじまりからお別れまでの様子をのぞいてみましょう！

Start

声かけのはじめの1歩！

「お手伝いしましょうか？」



皆さんにお願いします。

盲導犬ユーザーを見かけた時は、「お手伝いが必要かな？」という気持ちを持って、見守ってください。そして「あれ？」と思ったら、ぜひ「お手伝いしましょうか？」の声をかけをお願いします。声をかける相手は、盲導犬ではなく盲導犬ユーザー。その一言から、安心と安全につながるコミュニケーションを始めましょう。

この一言からはじめてお



Step1

おぼえておこう！ 声かけのポイント



大事なポイントだよ



雑踏の中や、少し距離が離れていたりすると、盲導犬ユーザーは自分に声をかけられていることに気づかない場合もあります。盲導犬ユーザーに「お手伝い」の声をかけを気づいてもらうために、3つのポイントを参考にして、声をかけをお願いします。

①盲導犬ユーザーの前に立って、声をかけましょう。

※真後ろ等、盲導犬ユーザーが体の向きを変える方向から声をかけると、進行方向が分からなくなってしまいます。

②声をかけた後、軽く肩等を叩くと、気づきやすいです。

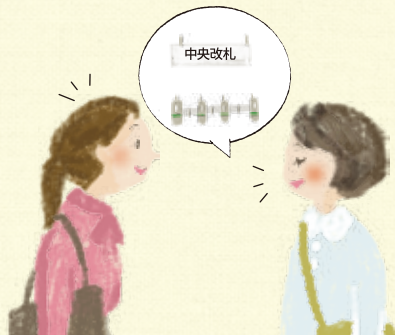
③腕を引っ張ったり、ハーネスをつかんだり、絶対にしないでください。

※驚いたり、バランスを崩したりしてしまうことがあるため、大変危険です。

Step2

お手伝いの内容を 聞きましょう！

お手伝いのお願いは
まさに10人10色！



中央改札

その時の状況によって、お手伝いしてほしい内容は、皆さんそれぞれ違います。例えば駅のホームひとつとっても、改札までの誘導なのか、階段の場所を知りたいのか、電車が来たら教えてほしいのか。もしかしたら、お手洗いの場所を探しているのかもしれない。声をかけて頂いたら、盲導犬ユーザーが何を願っていたのかをまず最初に聞いてみましょう。

Step3

誘導方法も 本人に聞いてOK



手引きが必要な時は、肘を持ってもらうか、肩に触れてもらうか等、誘導方法を直接盲導犬ユーザーに聞いても失礼ではありません。又「もう少しゆっくり（速く）歩きましょうか？」等と確認することが、安全な誘導に繋がります。

Step4

お手伝いが 終わった時



目的地までの誘導等、お手伝いが終わったあとは、黙ってその場を去るのではなく「ではここで失礼します」の一言をお願いします。盲導犬ユーザーは、皆さんの温かい気持ちに対して、お別れをする前にきちんと感謝の気持ちを伝えたいと思っています。

番外編

もしお手伝いを断られたとしても

普段から通い慣れた道だったり、とても急いでいたり、時にはお手伝いの必要がない場合もあります。もしお手伝いを断られても、「大丈夫ならよかった、お氣をつけて」と見守って、引き続き声かけの気持ちを持って頂けると、とても嬉しいですよ。



どこまでお手伝いすればよいの？

声かけはしたいけど、急いでいるから誘導はできないかも。土地勘の無い場所だから道案内に自信がない等、声かけをして頂く皆さまにも様々な事情があります。そんな時は無理をせず、盲導犬ユーザーに「自分ができるお手伝いの範囲を伝えていただければ、大丈夫です。」

最後まで読んでくれて
サンキューだよ

